

# 令和8年度 揖斐川町立小中学校における現状と今後の取組み

## ■ 確かな学力の育成 (以下、R07 全国学調の結果)

小国	無回答率全国平均以上、正答数6問以下10%以上
小算	「思考・判断・表現」全国平均を1.4pt下回り
中国	「文章の構成や展開について根拠を明確にして書きまとめる問題」正答率が14.1%と最低値

### <今後の取組み>

- ①年間・単元・単位時間＝「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランスを取りながら展開する。
- ②非認知能力の育成（学びに向かう力・人間性等）
  - ・自己管理能力、コミュニケーション能力、協調性、粘り強さ、好奇心等、将来の社会生活における重要性
- ③実生活・実社会の課題解決に学ぶ探究的な学びの充実

## ■ 教育のDX化の促進

令和7年度 全国調査	小学校6年		中学校3年	
	揖斐川町	全国	揖斐川町	全国
授業でタブレット等活用 (週3日以上)	66.3% (50.9)	71.7% (59.5)	81.6% (82.3)	76.5% (64.4)

### <今後の取組み>

- ①「デジタルシチズンシップ教育」のカリキュラム整備
  - ・中部教育会ICT推進担当者会が中心となって対応
- ②情報活用能力の育成
  - ・収集<発信=プレゼンテーション力の育成を重視
- ③次期校務支援システムの導入
  - ・9月以降各学校で運用開始、利活用による事務の効率化

## ■ 働きがい改革の推進

繁忙期		3月	4月	5月
R6	小	32h36s	37h28s	35h58s
	中	41h36s	47h37s	50h51s
R7	小	33h06s	35h46s	35h31s
	中	31h09s	52h20s	44h41s

○保護者や地域の理解、中学校部活動の地域展開、業務の精選等により、業務の整理と負担軽減が進みつつあり、個々のライフステージに応じた軽重ある働き方が選択可能  
 ▽部分休業、早出遅出勤務等、教員の多様な働き方が保障できるカリキュラム・マネジメントが必要

### <今後の取組み>

- ①「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定と実施状況の報告・公表の義務付け（総合教育会議）、働き方改革実施計画の策定と承認（学校運営協議会）
- ②共同学校事務室の設置（揖斐川中校区、北和・谷汲中校区）により、学校事務職員の校務運営の参画を促進、各学校の総務及び財務の一層の効率化を推進する。
- ③教頭業務支援員の有効活用により、教頭の在職等時間外勤務時間の縮減とマネジメント力の強化を図る。

## ■ 豊かな心の醸成 (以下、R07 全国質問紙調査の結果)

質問項目	区分	小学校		中学校	
		そう思う	どちらかというと	そう思う	どちらかというと
将来の夢や目標がある	町	46.4%	32.7%	35.3%	27.2%
	全国	60.6%	21.8%	36.1%	30.2%
人が困っている助ける	町	49.1%	46.4%	52.9%	38.2%
	全国	46.0%	46.7%	38.3%	51.8%

### <今後の取組み>

- ①（異学年、異世代、異文化・言語等）様々な人たちとの交流に学ぶ「ふれあい活動」で「寛容な心」を醸成する。
- ②地域の自然、伝統文化、キャリア形成等、多様な体験活動を通して、よりよい生活や生き方への考えを深める。
- ③「道徳授業づくり研修会」等を通して、道徳的判断力を高める授業づくり、「いのちの教育」について学ぶ。

## ■ CSを核とした地域とともにある学校運営

- 学校運営協議会の設置により、学校の運営方針等を地域と共有、住民の教育活動への参加促進、導入前からの活動の発展、教職員との良好な関係等に成果が認められた。
- 「教頭業務支援員」を配置し、教頭の多忙化解消に取り組んだ（前年度比で約17分の時間外勤務時間の縮減）。
- ▽導入初年度で地域住民への周知不足は否めず、学校運営協議会そのものへの理解が十分でない。

### 【各学校の好事例】

- ・揖斐小、北方小：地域の伝統文化を学ぶ学習
- ・小島小：地域づくり協議会とタイアップした授業づくり
- ・大和小：校舎西道路の安全表示（運転手への注意喚起）
- ・清水小、小島小、谷汲小：通学路、集団登下校、バス停
- ・北方小、谷汲小中：クマ対策講話

### <今後の取組み>

- ①学校運営協議会委員を対象にした実務者研修会の開催
- ②学校運営協議会を中心にした組織的な活動を推進するため、地域住民の参画による部会を設置する。
  - ・登下校の安全確保、学習（教育活動）支援、児童生徒の地域ボランティアのコーディネート

## ■ みんなで考える「これからの学校教育」の在り方

◎「子供たちのために必要だと思う教育環境」（揖斐川町学校教育の在り方審議会・住民アンケート調査）		
順位	一般住民	町内小中学校の教職員
1位	多くの仲間と関わりながら切磋琢磨できる環境(58%)	多くの仲間と関わりながら切磋琢磨できる環境(65.1%)
2位	地域の人たちとの交流の機会が多く、地域全体で（子供たちを）育むことができる環境（35.6%）	一人一人に先生の目が行き届き、きめ細かな指導を受けられることができる環境（47.9%）

### <今後の取組み>

- 審議会の予定：年5回（4/28 6/19 8/22 10/15 12/28）、1/22 答申、他市町村の取組みや学校等の視察
- ①これからの学校教育については、子供の育ちを中心に据え、少子化等の社会の変化に対応した教育内容や、地域とのつながりを大切にした教育活動等が具現できる環境を整えていく必要があり、以下の4視点から検討する。
    - (1) 教育的視点、(2) 地理的条件や地域連携の視点、(3) 学校施設の適正化の視点、(4) まちづくりの視点

## ■ 健やかな体づくり

○児童生徒の運動機会はコロナ禍前の状況に戻りつつある。  
 ▽スクリーンタイム（スマホ、タブレット等の使用時間）の増加、低年齢化への不安あり。

### <今後の取組み>

- ①A C P等を取り入れた体力向上、「チャレンジスポーツ in ぎふ」への参加等により運動に親しむ機会を拡充する。

## ■ だれ一人取り残さない教育の充実

### 【特別支援教育の充実】

○揖斐特別支援学校と連携した教員研修により、障がい種に応じた支援やケース会議の効果的な方法を学んだ。

### <今後の取組み>

- ①教員の専門性と指導力の向上
  - ・揖斐特別支援学校と連携した研修によるスキルアップ
  - ・人事異動（研修校派遣）を活用した長期的な人材育成

### 【不登校対策と児童生徒等支援の推進】

▽不登校児童生徒数は増加、小学校低学年から傾向あり。

### <今後の取組み>

- ①小1プロブレムと中1ギャップの解消による新規の不登校児童生徒の増加と不登校に悩む保護者への支援
  - ・幼保小「かけ橋プログラム」の実践、小中交流の充実
  - ・民間を含む関係機関との連携による居場所づくり
  - ・「保護者のつどい」による相互のネットワークづくり

## ■ いじめの未然防止と対応力の強化

認知件数：R5（103件）R6（95件）R7（89件）  
 ○「市町村教育長によるいじめ対策の連携強化に関する覚書」（7.6.25）の締結により、市町村及び関係学校のいじめ対応・未然防止の取組みに学ぶ。

○生徒指導部会夏期研修会（講師：松中 昭氏）を新たに実施し、いじめ認知力の向上と組織対応の強化を図った

### <今後の取組み>

- ①揖斐川町「いじめ防止基本方針」の改訂により、いじめ重大事態への組織対応の在り方を再整備する。
- ②市町村連携を進め、未然防止と組織対応の充実を図る。